

利 用 者 の た め に

1 調査の目的

新規就農者調査（以下「調査」という。）は、食料・農業・農村基本計画（令和2年3月31日閣議決定）に基づき、力強く持続可能な農業構造の実現に向けた担い手の育成・確保を推進するため、新規就農者数（雇用による新規就農者及び新規参入者数を含む。）を把握し、新たな人材を育成・確保する諸施策の企画・立案、検証等に必要な資料を整備することを目的とする。

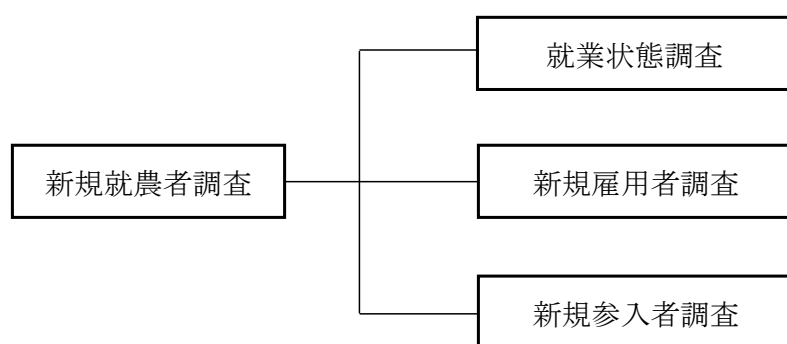
2 調査の根拠

調査は、統計法（平成19年法律第53号）第19条第1項に基づく総務大臣の承認を受けて実施した一般統計調査である。

3 調査の機構

調査は、農林水産省大臣官房統計部及び地方組織（地方農政局、北海道農政事務所、内閣府沖縄総合事務局及び内閣府沖縄総合事務局の農林水産センター）を通じて実施した。

4 調査の体系



5 調査の対象

新規就農者調査は、就業状態調査、新規雇用者調査及び新規参入者調査からなり、それぞれの調査の対象は次のとおりである。

(1) 就業状態調査

ア 2020年農林業センサスで把握した農業経営体のうち、農業構造動態調査（個人経営体調査）（令和4年2月1日現在）で抽出した経営体。

イ 2020年農林業センサスで把握した農業経営体のうち、アを除く個人経営体を対象とし、2020年農林業センサス結果の母集団名簿を用いて、主副業別（主業については、さらに農業経営組織別）の階層に基づく層化抽出法により抽出した経営体。

(2) 新規雇用者調査

2020年農林業センサスで把握した農業経営体のうち、団体経営体（(1)の個人経営体以外）並びに2020年農林業センサス以降に実施した農業構造動態調査で把握した新設団体経営体を対象とし、2020年農林業センサス結果及び農業構造動態調査結果の母集団名簿を用いて、農産物の販売金額規模階層等に基づく層化抽出法により抽出した経営体を

調査した。

(3) 新規参入者調査

全ての農業委員会等（農業委員会が設置されていない市区町村にあつては、当該市区町村。）を調査した。

6 調査期日

令和4年2月1日現在

7 調査事項

(1) 就業状態調査

農業経営の状況、農業従事者数、年齢及び性別、調査期日前1年間及びさらにその前1年間の生活の主な状態、この1年間に自営農業を開始した者の就農時の形態

(2) 新規雇用者調査

新規雇用者の有無及び人数、農産物の年間販売金額、新規雇用者の年齢及び性別、農家出身・非農家出身の別、就業上の地位、従事する作業の内容、雇用される直前の就業状態

(3) 新規参入者調査

新規参入者の有無、新規参入者の経営の責任者・共同経営者の別、年齢及び性別、主な部門

8 調査方法

(1) 就業状態調査及び新規雇用者調査

調査は、調査対象へ郵送により調査票を配布し、政府統計共同利用システムのオンライン調査システム又は郵送により回収する自計調査として実施した。

なお、疑義が発生した調査票については、地方農政局等の職員が電話確認して補正した。

(2) 新規参入者調査

調査は、調査対象へ郵送又は電子メールにより調査票を配布し、政府統計共同利用システムのオンライン調査システム、電子メール又は郵送により回収する自計調査として実施した。

9 調査対象者数

区 分	調査対象者数	有効回答数	有効回答率
就業状態調査	66,907 経営体	51,794 経営体	77.4%
うち新規就農者調査	38,199 経営体	26,855 経営体	70.3%
うち農業構造動態調査	28,708 経営体	24,939 経営体	86.9%
新規雇用者調査	4,643 経営体	2,963 経営体	63.8%
新規参入者調査	1,750 委員会等	1,750 委員会等	100.0%

注：有効回答数とは、無効回答を除く集計に用いた調査対象者の数である。

10 集計方法

集計は、農林水産省大臣官房統計部において行った。

(1) 新規自営農業就農者

集計対象事項（ X ）の推定値を次に示す推定式により算出した。

[推定式]

$$X = X_1 + X_2$$

$$X_h = \sum_{i=1}^L \frac{N_i}{n_i} \sum_{k=1}^{n_i} x_{ik} \quad (h = 1, 2)$$

X_1 : 就業状態調査による新規就農者数の推定値

X_2 : 農業構造動態調査による新規就農者数の推定値

L : 階層の数（就業状態調査は主副業別（主業については、さらに農業経営組織別）の12階層、農業構造動態調査は主副業別及び農業経営組織別の33階層）

N_i : 第 i 階層の母集団の大きさ（経営体数）

n_i : 第 i 階層の集計経営体数

x_{ik} : 第 i 階層の k 番目の集計経営体に係る x の調査値

(2) 新規雇用就農者

集計対象事項（ T ）の推定値を次に示す推定式により算出した。

[推定式]

$$T = \sum_{i=1}^L \frac{N_i}{n_i} \sum_{j=1}^{n_i} x_{ij}$$

N_i : 第 i 階層の母集団の大きさ（経営体数）

n_i : 第 i 階層の集計経営体数

L : 階層の数（農産物の販売金額規模階層等別）

x_{ij} : 第 i 階層の j 番目の集計経営体に係る x の調査値

(3) 新規参入者

調査結果の単純積み上げにより算出した。

11 実績精度

新規自営農業就農者数（3万6,890人）及び新規雇用就農者数（1万1,570人）についての実績精度を標準誤差率（％）（標準誤差の推定値÷推定値×100）により示すと、次表のとおりである。

区 分	標準誤差率
新規自営農業就農者数	2.6%
新規雇用就農者数	5.3%

12 用語の解説

新規就農者	新規自営農業就農者、新規雇用就農者及び新規参入者の3者をいう。
新規自営農業就農者	個人経営体の世帯員で、調査期日前1年間の生活の主な状態が、「学生」から「自営農業への従事が主」になった者及び「他に雇われて勤務が主」から「自営農業への従事が主」になった者をいう。
新たに親の農業経営を継承	親の農業経営を継承して経営の責任者になった者（共同で農業経営を継承した者を含む。）をいう。
親の農業経営とは別作物等を新たに開始	新たに親とは別の作物（品目）で農業経営を開始（農業生産関連事業（「農作物の加工」、「観光農園」、「農家民宿」等の農業生産に関連した事業を含む。））し、その経営の責任者になった者をいう。
新規雇用就農者	調査期日前1年間に新たに法人等に常雇い（年間7か月以上）として雇用されることにより、農業に従事することとなった者（外国人技能実習生及び特定技能で受け入れた外国人並びに雇用される直前の就業状態が農業従事者であった場合を除く。）をいう。
就業上の地位	「役員」とは、農業経営の責任を負っている者、又は業務執行、会計監査等の権限を有する者をいい、「構成員」とは、任意組織等の法人格を有さない組織で経営に関与している者をいう。「その他」とは、「役員」及び「構成員」以外をいう。
新規参入者	土地や資金を独自に調達（相続・贈与等により親の農地を譲り受けた場合を除く。）し、調査期日前1年間に新たに農業経営を開始した経営の責任者及び共同経営者をいう。 なお、共同経営者とは、夫婦がそろって就農、あるいは複数の新規就農者が法人を新設して共同経営を行っている場合における、経営の責任者の配偶者又はその他の共同経営者をいう。
部門	新規参入の時に主体として取り組むこととしている部門をいう。
新規学卒就農者	新規就農者のうち、自営農業就農者で「学生」から「自営農業への従事が主」になった者及び雇用就農者で雇用される直前に学生であった者をいう。
農業経営体	農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭羽数が、次の規定のいずれかに該当する事業を行う者をいう。 ア 経営耕地面積が30a以上の規模の農業 イ 農作物の作付面積又は栽培面積、家畜の飼養頭羽数又は出荷羽数、その他の事業の規模が次の基準以上の農業

	① 露地野菜作付面積	15 a
	② 施設野菜栽培面積	350 m ²
	③ 果樹栽培面積	10 a
	④ 露地花き栽培面積	10 a
	⑤ 施設花き栽培面積	250 m ²
	⑥ 搾乳牛飼養頭数	1 頭
	⑦ 肥育牛飼養頭数	1 頭
	⑧ 豚飼養頭数	15 頭
	⑨ 採卵鶏飼養羽数	150 羽
	⑩ ブロイラー年間出荷羽数	1,000 羽
	⑪ その他	調査期日前1年間における農業生産物の総販売額 50 万円に相当する事業の規模
	ウ 農作業の受託の事業	
個人経営体	個人（世帯）で事業を行う経営体をいう。なお、法人化して事業を行う経営体は含まない。	
団体経営体	個人経営体以外の経営体をいう。	

13 東日本大震災の影響

(1) 平成 23 年～26 年調査

調査不能となった福島県の一部地域を除いて、集計を行った。

(2) 平成 27 年～令和 3 年調査

就業状態調査及び新規雇用者調査は、本調査の母集団としている農林業センサスにおいて、福島県の一部地域の調査を実施できなかったため、本調査の結果には当該地域は含まれていない。

14 利用上の注意

(1) 統計の表示について

ア 表中の数値については、1 の位を四捨五入し、10 人単位で表記しており、表中に使用した記号は、以下のとおりである。

「0」：5 人未満のもの

「－」：事実のないもの

「△」：負数又は減少したもの

イ 統計表の数値については、集計値の原数を下 1 桁で四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

(2) 本統計の累年データについては、農林水産省ホームページ「統計情報」の分野別分類「農家数、担い手、農地など」の「新規就農者調査」で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sinki/index.html#r> 】

なお、統計データ等に訂正等があった場合には、同ホームページに正誤表とともに修

正後の統計表等を掲載します。

- (3) この報告書に掲載された数値を他に転載する場合は、「令和３年新規就農者調査」（農林水産省）による旨を記載してください。

15 お問合せ先

農林水産省大臣官房統計部 経営・構造統計課センサス統計室 農林漁業担い手統計班

電 話：（代表）０３－３５０２－８１１１（内線３６６６）

（直通）０３－６７４４－２２４７

F A X： ０３－５５１１－７２８２

- ※ 本調査に関する御意見・御要望は、「15 お問合せ先」のほか、農林水産省ホームページでも受け付けております。

【 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/tokei/kikaku/160815.html> 】